



# アントレプレナーシップ教育の推進

地域未来協創本部 准教授 服部大輔

教養育成科目における「実例ビジネス開発論」を2017年度から、また同じく教養育成科目における「アントレプレナーシップ入門セミナー」を2023年度から担当しており、オープンイノベーション推進本部・辻本准教授と二人三脚で、島根大学の学生に対する起業家精神（アントレプレナーシップ）の育成に努めております。

「アントレプレナーシップ入門セミナー」では、地域で活躍する経営者を大学にお呼びし、起業や経営への熱い思いを語って頂きます。学生はこれに対して、サイモン・シネックの発案した「ゴールデン・サークル・セオリー」を用いて、**Why, How, What**からの分析を行います。その後、分析した**Why**などから導き出した独自の新規事業提案を前段で発表いただいた企業や経営者に対して行います。

一方、「実例ビジネス開発論」では、サラス・サラスバシー博士が考案した、不確か時代における熟達した企業家の意思決定理論「エフェクチュエーション」の概念を用います。学生は、ワークシートやカードを使いながら楽しく自己分析や自分たちの持っている強みや夢などを分析していきます。その後、グループでそれぞれのカードを持ち寄り、これらを統合することにより、自分たちの持っている現在の資源からどのようなアクションが可能なのかを決定し、ビジネスプランをゼロから考えていきます。

これらのアントレプレナーシップ教育は、必ずしも起業家を育成することのみを目指した取り組みではありません。不確かな時代においても、能力を発揮し多様な人々と協力しながら、地域の課題解決や組織内での新規事業を推進し、世の中を変革していくような人材（調和型イノベーター）の育成を目指しています。

